



東部教育事務所社教便り『社窓』

No.23 (平成25年6月)

所在地：安芸市矢ノ丸1-4-36

TEL：0887-34-3591 (百々)

FAX：0887-34-3592 (大谷)

E-mail：310304@ken.pref.kochi.lg.jp

東部地区社会教育委員連絡協議会総会及び研修会報告

入梅の候、高知県東部地区社会教育委員連絡協議会総会及び研修会が、6月7日(金)の午後安芸市民会館にて開催されました。本協議会は、安芸郡市(芸西村、安芸市、安田町、馬路村、田野町、奈半利町、北川村、室戸市、東洋町)並びに香美市、香南市、11市町村の社会教育委員と社会教育担当者等で構成され、社会教育委員等の任務に関する研修を深めるとともに、会員相互の連携を密にし、社会教育活動の振興に寄与することを目的としています。今年度最初の会も、昨年同様多数の会員が参加し、総会では、平成24年度事業・決算・監査報告と平成25年度事業計画案・予算案が承認されました。また、平成25年度役員については、教育委員会担当者の異動等による変更が承認されました。

研修会は、まず「高知県の社会教育の現状について」と題して、高知県教育委員会生涯学習課の来節子チーフから、社会教育の定義、社会教育委員の職務と具体的活動、高知県内社会教育委員と公民館の現状などについての講話がありました。続いて、高知県教育振興基本計画重点プランの概要と、プランに関わる本年度の生涯学習課の主な事業内容の説明があり、高知県の生涯学習全般にわたる幅広いお話を聞くことができました。



<講演から>

①社会教育委員の具体的活動について

- 社会教育法と社会教育委員の職務、高知県社会教育委員に関する条例などについて
 - ・県教委諮問：「県民の力を育み、絆を創出するための社会教育の在り方」について(～H26.7)
- 市町村ごとの社会教育委員数と男女比率、委員構成、会議の回数、協議や答申等の内容
 - ・委員数は6～10人で、男性の比率(66%)が高く、社会教育関係者の比率(46.1%)が高く、会議の回数は年1～2回(70.6%)の市町村が多い

②学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力について

- 現状：家庭や地域の教育力の低下、子どもの学び意欲や学力・体力の低下、問題行動など
- 方策：地域全体で学校や子どもを支える仕組み(学校応援団)づくり
 - ・学校と家庭、地域の三者が、それぞれに求められる役割を果たしながら、社会の変化等も踏まえ、新たな連携協力の仕組みを構築していくこと
 - ・学校支援地域本部事業、放課後子どもプラン推進事業などの有効性について

③高知県教育振興基本計画(重点プラン)の概要と県生涯学習課の取組について

- 児童生徒の知・徳・体に関わる状況、子どもの読書活動総合推進事業、若者の学びなおしと自立支援事業、「早ね、早おき、朝ごはん」運動の推進など

＜参加者からの声＞



学校と家庭、社会教育との連携が大切で、地域の教育力向上が、子どもたちの学力や体力の向上にもつながる旨のお話だった。今まさに地域に求められているものだと思う。



地域の人々による学校づくりも大切だけど、最近学校だけでは行事等を行いつらくなってきている。学校に対しても社会教育の重要性を伝えてもらいたい。

高知県の教育全般の現状と課題、取組など、豊富な資料も示されて、大変勉強になった。社会教育とは何かを再認識でき、改めて守備範囲が広いと感じた。



講話の後は、グループに分かれて、各地域の現状と課題、課題解決のためにやってみたい取組などについての協議を行いました。課題としては、

- ◇高齢化・少子化による公民館等、社会教育施設利用者の減少
- ◇青年層（若い世代）の組織化や行事等への参加が停滞
- ◇社会教育への関心が薄い
- ◇参加者やお世話する人の固定化（新しい人材育成）
- ◇社会教育全般に関わる人材バンク作成



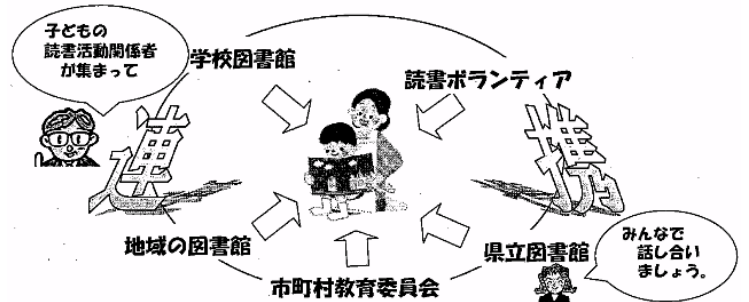
などが挙げられていました。

しかし、一人一人の参加者から出された地域の課題が多く、また時間も限られていましたので、課題解決のための方策を考えるまでは至りませんでした。研修会アンケートの参加者からの意見にも、「協議の時間が短く、不完全燃焼だった。」「もっと、深まりのある意見交換をしたかった。」などの声が多くありましたので、次回の冬の研修会では、熟議の時間を十分にとり、各地域の特色ある取組の情報交換もできるようにしたいと考えています。

子どもの読書活動協働推進のための熟議（東部ブロック）より

本年度より新たに始まった事業、子どもの読書活動協働推進のための熟議（東部ブロック）が、6月17日（月）の午後、安田町文化センターにて開催されました。本会は、安芸郡市並びに香美市と香南市の市町村教育委員会読書担当者や各学校図書館担当者、市町村図書館職員、読書ボランティア等が、子どもの読書活動を地域ぐるみで支える環境を整備するために、県内外の先進事例を学ぶとともに、熟議により地域の読書活動の現状と課題を共有し、課題解決に向けた協働的な取組の基盤を醸成することを目的としています。本会は、2回連続の講座となっており、初回は東部地区全市町村から30名の参加がありました。

初めに、高知県生涯学習課から、本年度の子どもの読書活動推進に関わる事業説明があり、県内の子どもの読書活動の現状（小中学校と



も学校図書館を活用した授業実施率や図書館図書標準達成率が全国と比べると低くなっていることなど)や、子どもの読書活動推進に係る家庭・学校・図書館・地域の役割(市町村の子ども読書活動推進計画の策定・推進など)についての話がありました。

その後、「子どもの読書活動の総合的推進」と題して、高知大学教育学部の渡邊春美教授の講演がありました。読書の意義から地域や図書館、学校、家庭における読書活動の推進について、活動の実例や教科書の活用例などをあげながら、分かりやすく話して下さいました。

講演後、「地域における読書活動の現状と課題」について、グループ協議を行いました。1グループ6人程度で、課題について協議しながら、模造紙と付箋を活用し、話し合った内容を視覚化して、全体の場で発表することにより共通理解を図りました。協議が盛り上がり時間が足りなくなり、課題の背景にあるものを探るまで至らなかったグループもありましたが、読書活動の現状と課題については、把握できていたように感じました。



全体発表から、次のような課題が挙げられました。

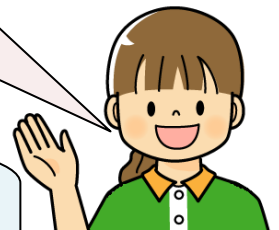
- ◆図書館の環境整備(レイアウト、新しい本や事典等調べ学習用図書の充実、子どもの趣向に合った図書の選定、校内の図書館の位置など)
- ◆図書館の授業等での活用と開放時間の拡大
- ◆公立の図書館と学校図書館の連携
- ◆地域の人々も読書につなげる
- ◆新しい読書ボランティアの参加促進
⇒ スキルアップ
- ◆レファレンスサービスの充実
- ◆ブックスタートの実施
- ◆家庭文庫の開設
- ◆貸し出し・検索システムの更新 など



<参加者からの感想や意見>

読み聞かせボランティアや読書活動支援員の方々と現場で活動することが少なく、分からないことが多かったので、大変勉強になった。読書活動の理想に一歩一歩近づきたい。まずは、学校の先生から。そして、家庭の協力をもらいつつ地域へと広げていきたい。(学校図書担当)

目から鱗の話が聞けてよかった。「読書の記録」の話は参考になった。親子読書が低調になってきている昨今、「母と子の20分間読書」のことについて触れていただいてよかった。改めて子ども時代の読書の重要性を感じた。(読書ボランティア)





公立図書館や地域の声を学校も知るべきだし、伝えるべき。課題の分別が中心となり、意見交流が少なくなったのは残念。次回は、それぞれの立場によって観点が違うので、ジャンルごとに集まって話ができるといい。
(図書館支援員)

立場の違う者が、様々な課題で協議でき、同じ課題を感じ、抱える者同士で共感できた。次回も色々な意見をもらい、参考にしたい。また、課題解決のための具体的な話を専門的に聴きたい。(教育委員会図書担当)



次回の熟議は、8月5日(月)に実施されます。参加された方からの意見や感想を生かして、「子どもの図書館等の活用促進」に向けた取組について、全国の事例を紹介したり、取組協議を行ったりして、深まりのある熟議となるようにしたいと考えています。

※ 次号(9月)のお知らせ

「第2回読書活動協働推進のための熟議(東部ブロック)」報告
「PTA教育行政等研修会(安芸地区、香美・香南地区)」報告
を予定しています